

■島尾敏雄 小説家。『人間魚雷』出撃直前に<敗戦>、奄美での妻の病との相剋などを背景に、独自の世界を拓いた。

しまおとしお
ロシア革命・1917＝ 横浜で、福島出身の輸出絹織物の商人の長男に生れた。

原敬首相暗殺1921＝ 4歳：

関東大震災・1923＝ 6歳：関東大震災で家が全壊したが、家族は偶然横浜を離れていて助かった。

護憲三派圧勝1924＝ 7歳：横浜尋常小学校に入学。校内雑誌に図画と作文が載った。

治安維持法・1925＝ 8歳：兵庫県の西灘に転居。西灘尋常小学校に転校。『ひとりで定期的な小冊子を出す。

日本時代始・1926＝ 9歳：

世界恐慌・・1929＝12歳：神戸市に転居、神戸尋常小学校に転校。

海軍軍縮条約1930＝13歳：県立第一神戸商業学校に入学。

満州事変・・1931＝14歳：『金森正典・正隆兄弟と{少年研究}を編集発行、のち自分だけの雑誌となる。

国際連盟脱退1933＝16歳：『金森正典の{峠}に同人参加。{若草}に「剣山の想ひ出」が入選。

帝人疑獄事件1934＝17歳：母が死去。『{紫草}に同人参加。{詞華の花籠}に詩が採録される。

芥川直木賞始1935＝18歳：卒業。浪人して受験勉強。『{鷲馬}に同人参加。

二二六事件・1936＝19歳：長崎高等商業学校に入学。『{LUNA}に同人参加。

日中戦争始・1937＝20歳：『金森正隆らと第二次{峠}を発行。{映画軌線}に映画評を発表。

健保+総動員 1938＝21歳：『同志と{十四世紀}を創刊、「おキイの貞操とマコ」を発表して発禁処分を受け、特高に調べられる。

第二次大戦始1939＝22歳：卒業し、専門課程に進む。『新聞社のフィリピン派遣学生旅行団に参加、上海、台湾も旅した。{科学知識}の懸賞小説で「お紀枝」が佳作。{こおろ}を創刊。

大政翼賛会・1940＝23歳：九州帝国大学法文学部経済学科に入学。『{こおろ}に「呂宋旅行」を連載。

日米開戦・・1941＝24歳：経済学科を退学して文科に再入学し、東洋史を専攻。嫁いだ妹を訪ねて、『満州旅行。

・・・・・1942＝25歳：妹を迎えがてら、朝鮮旅行。1年下の庄野潤三と知り合う。

創価学会検挙1943＝26歳：大学をくりあげ卒業。『{幼年記}を自費出版。海軍予備学生を志願して、旅順の教育部に入る。

年金+総武装 1944＝27歳：第一期魚雷艇学生として訓練を受け、海軍少尉、{震洋隊}の隊長として、奄美の加計呂麻に赴任。中尉になり、ミホと知り合う。

敗戦・・・・・1945＝28歳：出撃用意を命じられるが、実行前に敗戦。大尉で召集解除。神戸の父のもとに帰る。

新憲法公布・1946＝29歳：ミホと結婚。庄野潤三・三島由紀府らと{光耀}を創刊、「はまべのうた」「孤島夢」を発表。

新憲法施行・1947＝30歳：神戸市立外事専門学校助教授となる。『{VIKING}に「単独旅行者」を連載。

極東裁判決・1948＝31歳：長男誕生。『「島の果て」を発表。「単独旅行者」が{芸術}に転載、のち新人創作選の一冊として刊行。{近代文学}同人。以後、毎年1,2作を発表。

三大事件・・1949＝32歳：『「格子の眼」を刊行。

朝鮮戦争始・1950＝33歳：長女誕生。神戸市外国語大学助教授となる。*「出孤島記」により第一回戦後文学賞。{新日本文学}に発表した「ちっぽけなアヴァンチュール」で、共産党内に論争。初の書き下ろし長編「贗学生」を刊行。

独立回復・・1951＝34歳：

マーデー事件・1952＝35歳：退職して、上京。

TV放送始・・1953＝36歳：吉行淳之介らの{構想の会}に参加。

自衛隊発足・1954＝37歳：奥野健男らの{現代評論}に参加。妻ミホが心因性反応発病。

55年体制始・1955＝38歳：治療のため千葉に転居、精神病院に入院の後、奄美大島名瀬市に移住。「われ深きふちより」を刊行。

国連加盟・・1956＝39歳：「夢の中での日常」を刊行。カトリックの洗礼を受ける。妻の病気が回復に向う。

なべ底不況・1957＝40歳：「島の果て」を刊行。奄美日米文化会館の館長に就任。

インストument・1958＝41歳：『{奄美郷土研究会}を組織、会報を発行。開設された鹿児島県立図書館の奄美分館の館長に就任。

美智子妃・・1959＝42歳：井上光晴らの{現代評論}に参加。

安保闘争・・1960＝43歳：十二指腸潰瘍で一時入院。『「死の棘」を刊行し、

タイタイ病始・1961＝44歳：*芸術選奨を受賞。「島尾敏雄作品集」全5巻刊行開始。

全国総合計画1962＝45歳：「島へ」「非超現実主義的な超現実主義の覚書」を刊行。

TV宇宙中継始1963＝46歳：アメリカ政府の招待で、訪米旅行。

東京オリンピック 1964＝47歳：「出発は遂に訪れず」を刊行、南日本文化賞。沖縄列島を旅行。

大学紛争始・1965＝48歳：モスクワでの日ソ文学シンポに参加、ソ連、ポーランドを旅行。「日のちぢまり」を刊行。

いざなぎ景気1966＝49歳：「島にて」を刊行、西日本文化賞。

美濃部都知事1967＝50歳：ソ連、東欧を単独旅行。

震ヶ関バトル・1968＝51歳：「日を繋げて」を刊行。

全共闘バトル・1969＝52歳：「琉球弧の視点から」を刊行。自転車事故で長期入院、頭部打撲の後遺症がのこる。

大阪万博・・1970＝53歳：妻ミホが心臓発作で倒れ、以後3年病臥。アジア・アフリカ作家会議のため、ソ連やインドを旅行。

ドルショック・・1971＝54歳：「夢の系列」を刊行。

日中国交回復1972＝55歳：「硝子障子のシルエット」を刊行、毎日出版文化賞。{カンナ}同人。

石油ショック1973＝56歳：「記夢志」を刊行。「島尾敏雄非小説集成」全6巻刊行開始。

角栄金脈辞任1974＝57歳：ミホが「海辺の生と死」を刊行。

ケアンブル事件1975＝58歳：「夢のかげを求めて」を刊行。指宿市に転居、鹿児島純心女子短期大学教授となり、図書館長を兼任。

田中角栄逮捕1976＝59歳：「鬼剥げ」「日の移ろい」を刊行し、

JALハイジャック・1977＝60歳：谷崎潤一郎賞。茅ヶ崎市の海岸に転居。全く新たに編成しなおした「死の棘」を刊行し、

成田衝突・・1978＝61歳：*読売文学賞、日本文学大賞、戦後日本の最高傑作ともいわれた。「夢日記」を刊行。

貿易摩擦問題1980＝63歳：「島尾敏雄全集」全17巻刊行開始。

・・・・・1981＝64歳：日本芸術院賞。日本芸術院会員。「日記抄」を刊行。

中曽根内閣・1982＝65歳：「湾内の入江で」を発表し、

ドイツ・ユーラト・1983＝66歳：川端康成文学賞。鹿児島県加治木町に転居。

・・・・・1984＝67歳：同吉野町に転居。

ジャンボ機墜落1985＝68歳：「夢暦」「魚雷艇学生」を刊行し、野間文芸賞。同宇宿町に転居。

バブル始・・1986＝69歳：「続日の移ろい」を刊行。脳内出血で倒れ、没した。